

はじめに

われわれのNPO法人みんなのスポーツ協会が、二〇一八年二月三日をもって開設十五周年を迎えます。そこでこの機会に関係の方々と記念式典を催すことになりました。

式典では当協会の顧問である金子公宥氏に運動科学の講演をお願いしておりますが、同顧問は奇しくも同年に傘寿（八十歳）を迎えられますので、当協会では傘寿祝いとしまして同顧問が最近始められた短歌の編集をお手伝いすることと致しました。

編集では、同顧問のNHK（全国）短歌大会における多数の入選歌を中心に約200首を選んで収録しました。また巻末には、（同顧問の喜寿記念誌の「補遺」として）古希から一〇年間の研究・出版目録なども加えました。

皆様にお喜び頂けるものと確信しております。

二〇一七年十一月吉日

特定非営利活動法人みんなのスポーツ協会

〈註記〉短歌集は本来「一首一行」で編集されますが、NHK入選歌は、石川啄木、永井隆氏らの形式にならった「一首二行」形式で（その方が読者も読みやすいのではないかと考え）金子顧問の了承も得て編集しました。

## 《目 次》

### NHK（全国）大会入選作品

ひたひたと寄せ来る	1
戦争がそろりそろり	1
自販機の大きな音	1
堀端の藪蚊の群れ	1
行商の荷を負い	1
近隣の幼稚園より	2
人類は争い好む	2
たった今エレベーター	2
自転車の母の背	2
もがきつつ釣り	3
寝付かれぬわが顔	3
天空に光かがやく	3
夜遅く灯りをつけて	3
日溜りにネコが	4
電線に群れなしとまる	4
近頃は珍しくなりし	4
神仏の宗派を越えし	4
この魚どこを泳いで	5
ゆりかもめ急降下して	5
手術待つ白内障	5
夕暮れに独りで遊ぶ	5

### 自選短歌集

ことはじめ	6
蚊取線香	6
ふる里	7
終の住処	7
老い	8
散歩	9
人生いろいろ	10
天空	10
独り立ち	11
戦後の足跡	12
海外旅ガラス	12
ケンタッキー	13
中国・西安	13
スポーツ	14
季節はめぐる	15
岸和田城	17
城下町	18
研究のトンネル	19
社会・文化	20
二色の浜	21
住宅街	22
関西空港・淡路	22
病気・健康・好物	23
友だち	24
研究・出版	26

NHK短歌(全国)大会  
入選作品(二十一首)



入選

平成二十八年NHK全国短歌大会

日溜りにネコがのんびり昼寝する  
師走正月どこ吹く風と

金子公宥

平成二十八年NHK全国短歌大会における  
あなたの作品は頭書のとおりすぐれたものと  
認め、ここに入選証をお届けいたします  
今後もしつそうのご健詠をお祈りいたします

平成二十九年一月二十一日

NHK学園理事長

浜田泰人



ひたひたと寄せ来る波を受け止める

テトラポッドの音小気味良い

《平成二十七年六月入選》



自販機の大きな音に振り向けば

汗ふく若衆ニツカポツカで

《平成二十七年七月佳作入選》



戦争がそろりそろりとやってくる

誰もがみんな気づかぬうちに

《平成二十七年六月入選》



堀端の藪蚊やぶかの群れをくぐり抜け

項うなじに残りし一匹を叩く

《平成二十七年七月入選》



行商の荷を負い母は働きぬ

戦地に散りし父に代わりて

《平成二十七年一〇月佳作入選》



近隣の幼稚園より湧き上がる

歓声今日も老を励ます

《平成二十七年一〇月佳作入選》



人類は争い好む生物か

戦争たえぬ世界のどこかで

《平成二十八年四月入選》

たった今エレベーターを降りし女性

ミモザの香残して去りぬ

《平成二十七年一〇月入選》



自転車の母の背を抱く幼子の

くりくり眼秋の風吹く

《平成二十八年四月佳作入選》



もがきつつ釣り上げられしワカサギが

氷を枕に転びておりぬ

《平成二八年一〇月入選》



天空に光りかがやく日暈こそ

「日輪」の名にふさわしきかな

《平成二八年一〇月入選》



夜遅く灯をつけて壁を塗る

左官の鍔がキラリと光る

《平成二八年一〇月入選》



寝つかれぬ

わが顔かすめ一匹の

蚊が音高く

過ぎてゆきたり

《平成二八年一二月入選》



日溜りにネコがのんびり昼寝する

師走正月どこ吹く風と

《平成二八年一月入選》



近頃は珍しくなりし浴衣の娘

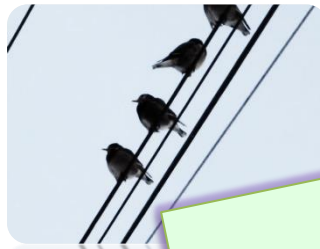
カタコトカタんと足音涼し

《平成二八年佳作入選》



電線に群れなしとまる雀たち  
見つめる方向なぜかバラバラ

《平成二九年三月佳作入選》



神仏の宗派を超えしクリスマス  
大和の国は平和なるかな

《平成二九年三月入選》



この魚どこを泳いでいたのだろう

我と目が合うお節せちのゴマメ

《平成二八年五月入選》



ゆりかもめ急降下して魚とる

銚もりをグサリと突き刺すように

《平成二八年五月入選》



手術待つ白内障のわが目には

かすみて見ゆる寒椿の花

《平成二八年五月入選》



夕暮れに独りで遊ぶ幼子の

ブランコの音幽かそけく聞こゆ

《平成二八年七月入選》



自選短歌作品

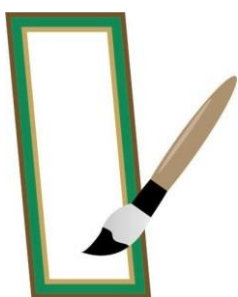


## ことはじめ

短歌詠む日々の楽しき教えられ全てを忘れ時の過ぎ行く

理科系で縁無き道と思いいし短歌よみ初<sup>そ</sup>む七十六歳

言い難き事はいろいろ多けれど短歌にすれば言える不思議さ



## 蚊取線香

仰臥してソファーにとろり微<sup>まじろ</sup>睡めば秋めく風に心ほぐれる



扇風機の風にのり来る懐かしの匂いは夏呼ぶ香取線香

妻の留守われエアコンを消し忘れ外出すれば帰宅がこわい

ジム帰り薄雲かかる太陽が目玉焼きに見ゆ空腹なれば

早朝の通勤電車に乗り合わせ押され押されて我が足いずこ

熱帯夜ねむり薬の代わりにと般若心経くりかえし唱う

定年後妻の気持ちがよく分かる「亭主元気で留守がいい」

## ふる里



ふる里の天城の山の名物はワサビの香りと浄蓮の滝

どんぐりのこまを回して遊びたる幼き頃のふるさとの道

合併で伊豆の国市と変わりたる我が韭山はいずこにありや

古里の曲りくねりし畦道がコンクリートになってしまいぬ

若き日に牛馬を駆ってのぼり来し奥箱根はいまゴルフ場

懐かしき古里の駅は無人にて一両電車の駿豆線走る

その昔淡き思いをかけし恋人孫を語る同窓会で

ふる里の道路はもっと広がった地球がいくぶん縮んだのかな

菜園に芽吹きし露の董をつむ薫なつかし母ありしとき

## 終の住処



山と海近くにありしマンションは終の住処に相応しきとぞ

マンションの眼下に広がる田畑に種まく農夫の手つきあざやか

連ドラの役者の芸に飲み込まれ終わりてみれば手の平に汗

## 老い

喜寿迎えとくと来し方振り返る「こんなものかな」マクロに見れば

わが夫婦「あれ・これ・それ」で通じ合う老いてぞ得たる阿吽の呼吸

マンションの玄関先のパンジーに癒され終わる今日の一日

若芽ふく桜の古木の茂みにてせつせと糸はる蜘蛛いそがしや

遅咲きの菜の花畑の畦道につつましく咲く枝豆の花

警告の赤字の文字が消え落ちて文字当てクイズ踏切前で

たった今感銘深く聞きしこと書き留めるまえに頭から消ゆ

今そこに置いたばかりの老眼鏡どこに消えたか煙のように



若者に席を譲られ遠慮する老人ゆえのささやかな意地

堤防に何を思いつむや沈む夕日に老人ひとり

喜寿近し思えば何度か死んだはず医学の進歩に救われて今

ベランダの隅に積みたる鉢三個すぎし季節の花の墓標か

浅漬けのラッキョウの味サキサキと食欲そそる夏の訪れ

## 散歩

道端の苔むす岩に陽がさして影に浮かびし地蔵の姿

家近き田圃たんぼの水の嘆きたるカエルやタニシいまいずこ

朧おぼろなる弓はり月と散歩する秋風のなか心すがしき

身の丈の影をともない散歩するのどかな冬の日差しをあびて

いつもなら空き缶つちつぶす槌つちの音今日は休みか 冬の雨降る

メモしたいときに限って手帳なく箸袋に書き財布にしまう

音消えて何処に行ったか気にかかる自動掃除機わが家のペット

道端に藪蚊の群れがうず巻いて行く手をはばむ夕べの散歩

啓蟄けいちつに姿あらわす一匹のカエルの足どりよたりよたりと

真夏日に地蔵と見たる岩ありて冬に入る日を山茶花の添う





## 人生いろいろ

若き日に叩き込まれし根性を使い果たして喜寿を迎える

年越しの蕎麦そばの代わりにうどん食たぶ太く長き人生願いて

亡き母が背せなで教えし教訓はしぶとく生きよ一人なるとも

鳥料理たぐみ匠の言葉の意味深く「自分を出さず、自然であれ」と

人里でヒトを襲いし熊一頭すべての罪を背負うがに死す

道  
頂

## 天空

中世のコペルニクスも眺めたか真つ赤な夕日の没するさまを

温暖化地球を丸ごと揺さぶるは可愛い名前のエルニーニョ

沖縄も寒波に襲わるラニーニャの自然しこしこ長めになって

薄ぐもる明るき昼の天空に見事に開きし日暈ひかさをおおぐ



## 独り立ち

アメリカへ留学する夢捨てきれず貨物船にてシスコに往きき

高校はわれに縁なき道と決めひたすらさがせし職人への道

高校の入学試験にコネ無用入学するや購買部創りき

通学の一時間ほどの畦道が勉強できる時間でありき

上京で母に貰いし六千円独り立ちへの最期の饞別

上京し宿を探せど見つからぬ我を救いし九州の先輩

入学し最初の二カ月職探し大学よりも生きるが先と

ピラ配りピエロ姿の看板持ち彫刻モデルが自慢のバイト

専攻科入試の成績認められ大学院を人は勧めき

ダメモトと受けし大学院合格し貧乏暮らしの新たな幕開く

一年中同じネクタイしめ続けなんとも思わぬ若き日のわれ

バイト得る賢い方法見つけたたり人の嫌がる仕事選びて



## 戦後の足跡

戦地より届きし父の手紙には軍靴かじる日々記されており

三人の幼児をおきて出征の戦地に散りし父の想いよ

食糧難われ肋膜炎を患いて一年遅れの国民学校

警察に背負う闇米とがめられ戦死し夫も巡査と言いし母

行商の玉子の仕入れわが任務部落を巡りて帰宅は夜ふけ



## 海外旅ガラス

黒焦げのバスの残骸匂いたつエルサレムの街に日が昇りたる

軍服の女性が二人銃を持ちバスに乗り来るイスラエルでは

ベルリンの壁の跡には桜だと募金集めし友の夢 叶う

ピキニより遙かに細い布つけて日光浴するフィンランド人は

サファリでは柵の内なる人間を見物しているインパラの群れ

枯葉まうミラノの秋は寒々と郷愁さそう夕暮るるときに

極北のフィンランドに春来れば芝生のキャンパス裸身<sup>ヌード</sup>で埋まる



ケンタッキー

シスコからケンタッキーへ三昼夜バスにて東へひた向かいしよ

留学のケンタッキー大学医学部の夜半の掃除は黒人なりき

アメリカで暮らしはじめしスラム街インドネシアの友と仲良く

研究の良き友なりしマスクレイブ宇宙飛行士に見事合格

柔道の愛弟子二人ベトナムで戦死したとの訃報に接しき

中国・西安

「乾杯！」と白酒かんべい ばいちゅうかけ宴かこむ日本と中国まさしく隣人

掛け軸の楊貴妃の顔ふくよかなり平安時代の女御のように

西安の街をとりまく城壁を登れば空中回廊のごと

兵馬俑の表情あまた凛として秦を支えし誇りがにじむ

## スポーツ

ラグビーの五郎丸とうキッカーの祈りのしぐさ みんな見つめる

砲丸を遠くに投げるひ弱な子調べてみれば脚で蹴りおり

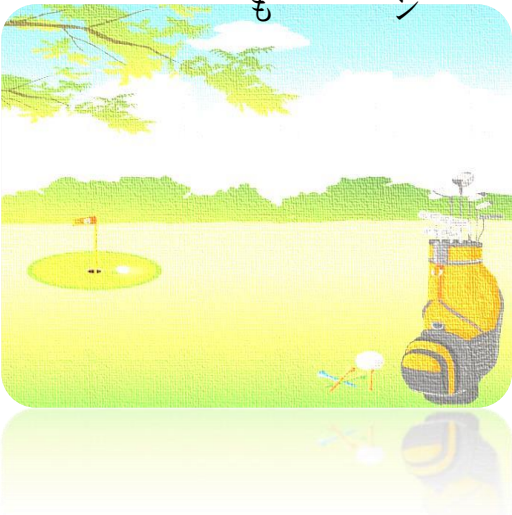
久々にゴルフの練習してみればまだやれそうな七十八歳

ゴルフなど何が面白いとけな貶したる友が今ではゴルフ狂なり

飛ばし屋と定評のあるゴルファーの動作に巧みな「鞭作用」をみる

陽光をあびてクラブを握りたり心を癒す一面のグリーン

早朝のゴルフの誘い断われず肩・腰・膝に痛みありても



モンゴルの国技のような大相撲ガンバレ大和の関取たちよ

土俵際おいつめられし白鵬の捨て身の技はやぐらな檣投げなり

平幕が当たると見せて横にとび上手ひねりで大関たおす

千代の富士「大横綱」の誉れもち一つの時代残して逝きぬ

季節はめぐる

春雨にかすむ淡路の山並みがわれを誘い幽玄に入る

臙脂色の牡丹をあまた咲かせおりさぞや重かる木の身になれば

背伸びして垣根をこえしハイビスカス色濃いピンクが夕日に映える

たちまちに匂を過ぎたる筍たけのこの伸びる速さは「破竹の勢い」

夏の日を鳴き続けたるアブラゼミカ尽きたかベランダにまろ転ぶ

くねくねと沈みては浮くボウフラよやがて蚊となり我らを襲わん

扇風機の風にのり来る懐かしの匂いは夏呼ぶ香取線香

小気味よい夏の夜風に誘われて海辺を歩く老いの身ひとり

照りつける真夏の太陽避けながら軒づたいに往く忍者のように





垂れ下がるホオズキ真つ赤に色づきて明るく照らす冬枯れの道

干支はサル孫悟空にあやかりて飛びまわりたし正月の空

冬の海風の風ぎたる水面をかすかに揺るがす海鳥三羽

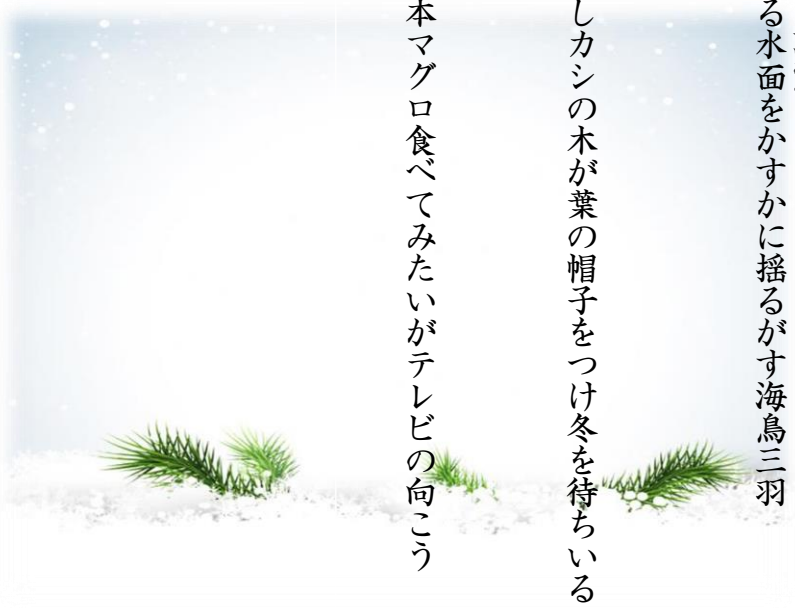
去年の冬裸にされしカシの木が葉の帽子をつけ冬を待ちいる

正月に匠のさばく本マグロ食べてみたいがテレビの向こう

ひとつだけ取らずに置かれし柿の実の寂しく見ゆる冬の夕空

秋来れば甘柿よりも干し柿の半ば生なる味が恋しい

たこ焼きをほおばりながら歩く予ら今は休みかだんじり曳きは



## 岸和田城

岸和田の城の内堀鎮まりて水面に展がるエメラルドグリーン

内堀の水面に浮かぶ楓の葉鯉の接吻うけて揺れたり

カイツブリ二十一羽が舞いもどり内堀はなやぐ岸和田城は

幾つもの末拡がりの波紋ひきてカルガモ泳ぐ城の内堀

工事後の岸和田城の内堀に棲みいし魚のいつ戻るやら





## 城下町

公園より聞こえる合唱乙女らのさやけき歌声秋風にのって

信号機寂しくないか今宵また点滅つづける赤青黄色

自転車の前と後ろと背に吾子連れて道行く母たくましき

いつも逢う車椅子の男の子見上げる笑顔にわれは救わる

誰にでも吠えかかりたる番犬が暑さに負けたか顎出し眠る

一面の菜の花畑見渡せば日頃の悩み解き放たれる

岸和田の城下に並ぶ家々にスレート瓦の洋館めだつ

岸和田のせわしき路地に日が暮れてネオンが競う空の空しき

春の日にベンチに腰掛け野の花をぼんやり眺める妻の留守どき

事故に遭う軽自動車の軟弱さダンプに負けぬ骨組みあれかし

雨やんで忘れられたる傘一本雨滴落として持ち主を待つ

縁日に居並ぶ店は多けれど匂いは一つイカヤキ屋から

足もとの櫓ならのドングリ二つ三つ磨きつつゆく朝の公園



## 研究のトンネル

針金のとび出たカバン見かねてか使い古しを差し出す師匠

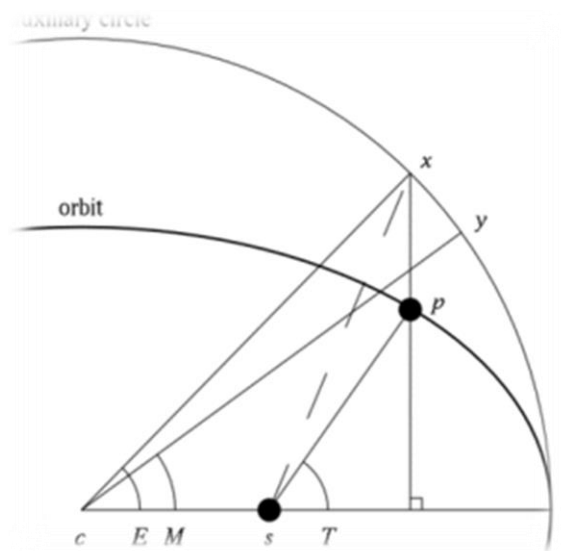
筋肉の働きを探る研究はからだの動く仕組み解くため

研究の中毒となりし我が身には「なぜか」が常につきまとうなり

研究を共にせし友マスグレレイブ宇宙飛行士に合格したり

研究が病み付きになるその訳は「そうだったのか」に出会う悦び

若者の鋭い問いを受け切れず床とこにつくとも眠れえぬ夜



## 社会・文化

パソコンの変換ミスが惹き起こす新しき世の新しき混乱

人間のアナログ脳はデジタルに敵わぬことを将棋が教える

戦争で建物こわし人殺す地球の混乱UFOが見てる

呼び合える「バラクと晋三・ロンと康」政治がらみの危うい友情

自動車が完全自動になるという安全も良いが人は何する

生物のオス・メス分類役立たずヒトの分類ジェンダーフリー

何ゆえに死に急ぐのかテロリスト パリの事件のテロップ流る

江戸川の水は黄河につながるやチャイナマネーが大和に流る

マスクしてかすむ街中往来す空気汚染の北京の人は

銃事件アメリカ社会に頻発すジョン・ウェインの映画のままに

アメリカのトランプ勝利が引き寄せる核戦争の危うきボタン

戦国の敵味方なく祀りたる弘法大師の高野山は

外国の旅行者がみな褒めちぎるトイレのツルツル車のピカピカ

徐行する車列を縫って突っ走る命知らずのバイクライダー

「天下り」たかまがはら高天原に始まりし神世の伝統いまに続けり

ベルリンの壁の跡には桜だと募金つのもりし友の夢叶う

## 二色の浜

霞か<sup>みまじ</sup>と見紛う霧が立ち込めて淡路の島は雲にとけゆく

二色ノ浜散歩はじめて二十年ストレス吹きとぶ海辺の夕日

夜釣りする光の浮きが見え隠れ然れど<sup>さ</sup>釣り人の頭動かず

茅渟<sup>ちぬ</sup>の海春一番が吹き荒れてテトラポットに波砕け散る

霞たつ二色ヶ浜の朝まだきかすかに響くジェット機<sup>ま</sup>の音

風のなぐ鏡のごとき海面に釣り人一人撒き餌<sup>ま</sup>を投げる」

沈みゆく日の輝きがいやまして光の粒が海にちらばる

突然にテトラポッドを滑落す意識のあればわれは生きてる

海中へゆっくり沈む太陽に煌めく海面<sup>うなも</sup>飲み込まれてゆく

久々に二色の浜に来てみれば小春日受けてヤドカリの這う

心地よい秋の夜風に誘われて海辺を歩く老いの身ひとつ



## 住宅街



鉛直の垣根に育つ南瓜なんきんを支える辛つるさ蔓のみぞ知る

五月雨がごみを浮かして堀そうじ流れ流れて海に至るや

公園の剪定されし櫟の木よ寒くはないか木枯らしの吹く

枯れ果てて伐りたおされし松古木何百年の年輪著しるし

母の背で桜のトンネル潜くぐり抜け振り返る子の笑顔愛らし

看板も蔦つたに埋もれしヘアサロンすつきり刈り上げ客を迎える

## 関西空港・淡路

空港をいま飛び立ちし飛行機の背景色どる茜色の雲

夕焼けの海辺を歩くわが後にずっとつき来る三毛猫一匹

往き来するあまたの船を見まもりて灯台今宵も闇夜を照らす

淡路島すそのの海に霞たちて島がまるごと浮き上がりたり

漆黒の海の向こうの淡路島うすれ日のなかほのかに浮かぶ





## 病気・健康・好物

四十路にて心臓発作に襲われき思えばこれが持病のはじまり

三回のステント施術が限界と心臓外科にわれは回さる

ステントのゴッドハンドと名を馳せし名医の手術に生命をたくす

糖尿病予備軍なれば検査後のヘモグロビン値に一喜一憂

蝉しぐれ我が耳去らぬものならば共に生きむと決める冬の日

よれよれに疲れしからだに活入れる好きなトンカツ活カのもと

「何食べる」尋ねてすぐに気付く友われの好物はトンカツなると

遠方の友より誘いのある時の決まり文句は「トンカツ食べん」



## 友だち

教え子の我より早き成仏に思わず叫ぶ怒りのごとく

教え子の懸賞小説当選し子弟の関係逆転の今

絵手紙の賀状の文字も絵のごとし友の心は豊かなるかな

もう二度と逢うことのない友乗せて霊柩車は行くしずしずと行く

いつよりか「鞭の会」の名称が「無恥の会」へと変わりて続く

熊本に「大丈夫か」と問う我に「頭真っ白」と電話の向こう

春の日に希望退職する友の前途に広がる四次元の世界

「つかれたよ、もう休みたい」と癌の友胸がつまりて言葉返せず

若き日に野山を賭けし友逝けり翅震わしてアブラゼミの鳴く





研究・出版

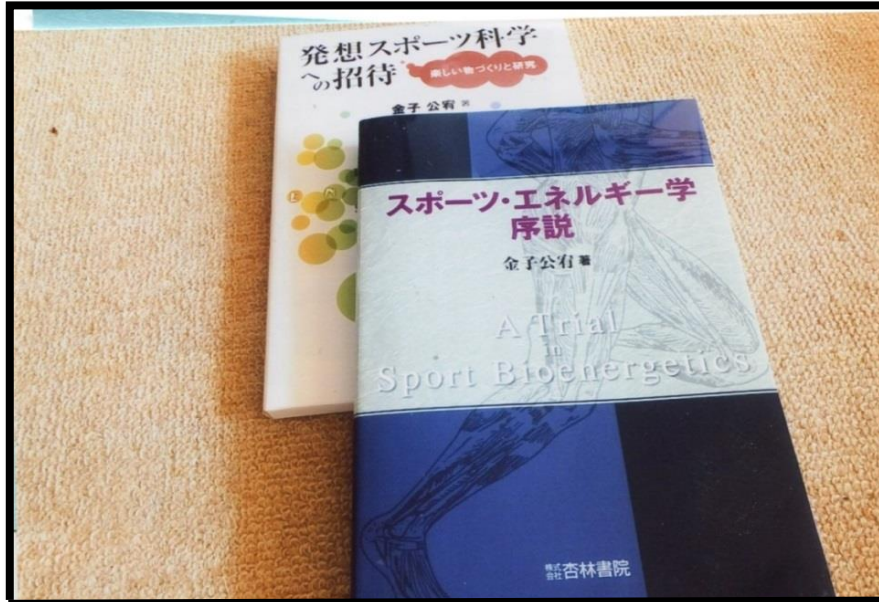
(古希)傘寿)



## 喜寿(70歳)後の著書

スポーツ・エネルギー序説 (杏林書院 2011)

発想スポーツ科学への招待 (杏林書院 2012)



## 握力計の不正確な実態とその対策

(藤田英和、好光栄智、池島栄治郎、田中ひかる、金子公有)

NPO法人みんなのスポーツ協会との共同研究



日本体育学会第62回大会で発表

会期：2011年9月25日(日)～27日(火)

会場：鹿屋体育大学

## 古希からの出版

### 〈研究・論文〉

#### 握力計の不正確な実態とその対策

(藤田英和、好光栄智、池島栄治郎、田中ひかる、金子公宥)

体育の科学 62(62):147-153 2012 (共著)

この論文はNPO法人みんなのスポーツ協会と共同で研究したもの  
第62回日本体育学会で発表(2011年:鹿屋体育大学)

### 〈総説論文(金子)〉

#### ヒトの運動における機械的効率の源流を求めて

体育の科学 62(10):729-736 2012 (単著)

#### 体カテストの計器に問題はないか:握力計の狂いの実態とその対策

体育の科学 61(4):28-29 2013 (単著)

#### 伸張性筋力の強さの秘密とそのメカニズム(その1)

~最大筋力を越える伸張性筋力の実際~

体育の科学 64(4):289-294 2014 (単著)

#### 伸張性筋力の強さの秘密とそのメカニズム(その2)

~タイチン(コネクチン)によるフィラメント滑走説の補強~

体育の科学 64(5):361-366 2014 (単著)

#### 伸張性収縮による仕事(negative work)はなぜ経済的か

体育の科学 65(2):147-155 2015 (単著)

#### カンガルーの五足歩行とホッピング

体育の科学 65(7):484-490 2015 (単著)

#### 筋収縮機構の発見とその後

~A. F. Huxley と H. E. Uxley を中心に~

体育の科学 66(9):691-697 2016 (単著)

古希までのその他の研究業績は「金子研究論文集(全6巻)」に収録(大阪体育大学図書館蔵)